

【2020年11月 イーアイデム会員対象 仕事探しに関するアンケート調査】

自信のない社会人基礎力 1位「創造力」、2位「働きかけ力」、3位「ストレスコントロール力」
自信がある割合は30代以下が他年代よりも少なく、60代以上が高い傾向

総合人材情報サービスの株式会社アイデム(本社:新宿区新宿/代表取締役社長:椋山 亮)は、11月に総合求人サイト『イーアイデム』を通じて求人に応募した会員を対象に仕事探しに関する調査を実施しましたので、結果を一部抜粋してお知らせします。

◆ 調査結果

【新型コロナウイルス感染症の影響】

新型コロナウイルス感染症の影響で仕事を探している人は43.9%

【新型コロナウイルス感染症拡大前後で仕事を選ぶ際の条件等は変わったか】

全体では「何らかの条件を変更した」39.7%、「条件・待遇は特に変えていない」60.3%
 「感染症影響あり」の人は「条件・待遇は特に変えていない」割合が40.0%

【社会人基礎力の自己評価】

自信のない社会人基礎力 1位「創造力」、2位「働きかけ力」、3位「ストレスコントロール力」

【社会人基礎力の自己評価(年代別・希望雇用形態別)】

自信がある割合は30代以下が他年代よりも少なく、60代以上が高い傾向

調査概要

調査対象	調査方法	調査期間	有効回答
総合求人サイト『イーアイデム』の会員で、2020年11月1日～11月30日の期間に『イーアイデム』から求人に応募した人	インターネット調査	2020年11月2日～12月6日	330名

◆ 調査・分析担当者のコメント:アイデム 東日本事業本部 データリサーチチーム 関 夏海

11月の調査結果では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて仕事探しをしている人が4割超となりました。全体で見れば、少しずつその割合は小さくなってきています。

経済産業省では、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を、社会人基礎力として定義しています。3つの能力、12の能力要素で構成されていますが、その種類によって自己評価にはばらつきがあり、年代や希望の雇用形態によっても差がみられました。若年者の場合、能力を備えていても「発揮」出来た経験がないために、自己評価が低いことが考えられます。社員教育・従業員研修で気づきのチャンスを増やしたり、面談等で個人に合わせたサポートを実施することで、自信に繋げることができれば、更なる能力の発揮に期待ができます。教育制度の見直しや従業員の傾向を図るための参考になれば幸いです。

※ 本ニュースリリースは調査全文の一部を抜粋しているため、調査全文をご希望の際は、下記広報担当へお問い合わせいただくか、下記のウェブサイトからダウンロードしてください。

<https://apj.aidem.co.jp/enquete/>

<本件に関するお問い合わせ先> 株式会社アイデム 広報担当/望月 電話:03-5269-8780

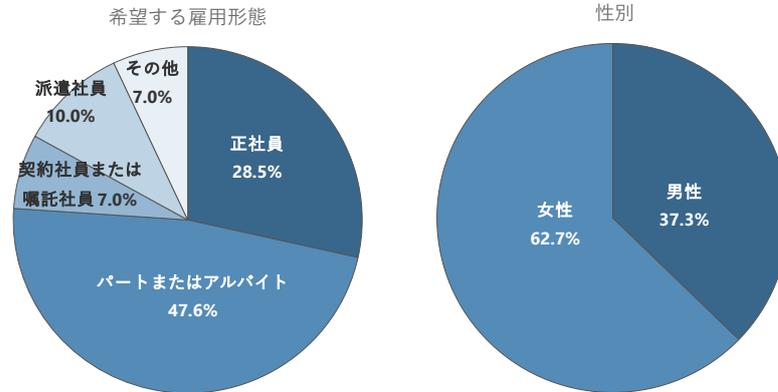
<株式会社アイデム 会社概要>

アイデムは1970年の新聞折込求人紙に始まり、人に「はたらく」感動を、企業には「人材」という価値をつなぎ、地域が発展できる社会の実現を目指してきました。求人サイト「イーアイデム」等の求人メディア、逆求人型新卒採用サイト「JOBBRASS 新卒」、採用ホームページ構築サービス「Job ギア探促」、新卒・中途の人材紹介といった時代の変化にも対応した採用支援だけでなく、労働雇用状況や社会の課題にも目を向けた調査分析、情報提供を行っています。これからもアイデムは、人と企業をつなぐ人材サービスを展開していきます。

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-4-10 電話/03-5269-8711(代) <https://www.aidem.co.jp>

調査結果の詳細(一部抜粋)

【回答者プロフィール】



【新型コロナウイルス感染症の影響】

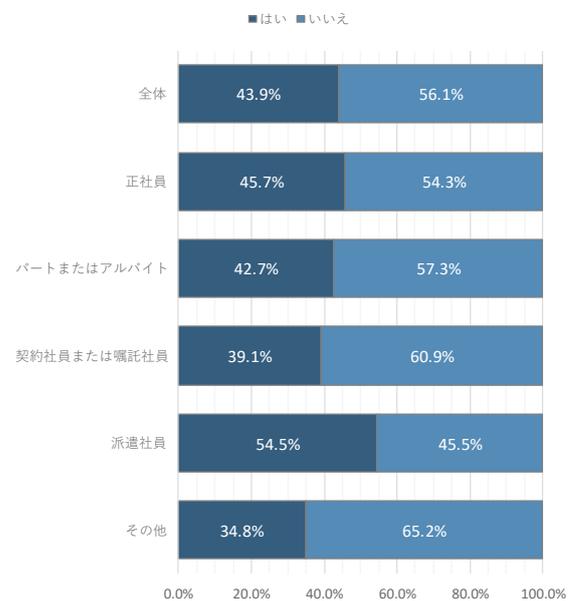
新型コロナウイルス感染症の影響で仕事を探している人は 43.9%

今回仕事探しをしている理由に「新型コロナウイルス感染症の影響」は関連しているかをきいた。全体で 43.9%が「はい」と回答し、約 4 割の回答者が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて仕事探しをしていたことがわかった。4 月調査時と比較すると、61.8%から 17.9pt 減少している。

希望雇用形態別に影響の有無をみると、「派遣社員」では 54.5%が「はい」と回答し、全体の数値より高くなった。

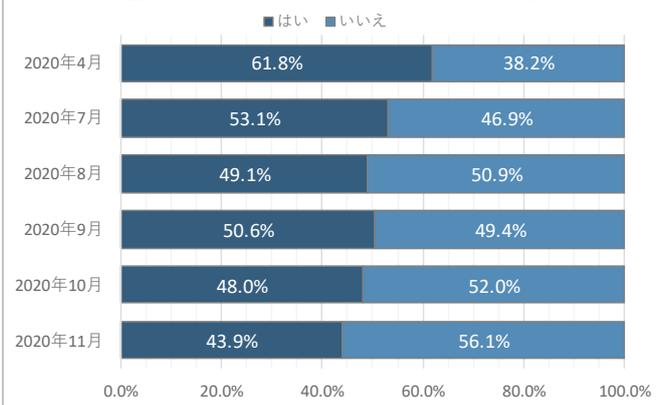
「パートまたはアルバイト」「契約社員または嘱託社員」希望の人は約 6 割が「いいえ」と回答し、感染症の影響を受けて活動をしている人が少なかった。

今回仕事探しをしている理由には、新型コロナウイルス感染症の影響は関連していますか。



参考

新型コロナウイルス感染症の影響割合の変化



【新型コロナウイルス感染症拡大前後で仕事を選ぶ際の条件等は変わったか】

全体では「何らかの条件を変更した」39.7%、「条件・待遇は特に変えていない」60.3%

「感染症影響あり」の人は「条件・待遇は特に変えていない」割合が 40.0%

新型コロナウイルス感染症拡大の前後で仕事を選ぶ際の条件等は変わったかをきいた。全体では「何らかの条件を変更した」39.7%、「条件・待遇は特に変えていない」60.3%となり、コロナ禍において仕事探しの軸を変えない人が6割となった。

「何らかの条件を変更した」人の状況を見ると、最も多かったのは「以前より応募数を増やして活動している」で 15.8%、次いで「希望する仕事内容・職種を変えた」が 11.5%となった。公共交通機関を利用した通勤に感染症への

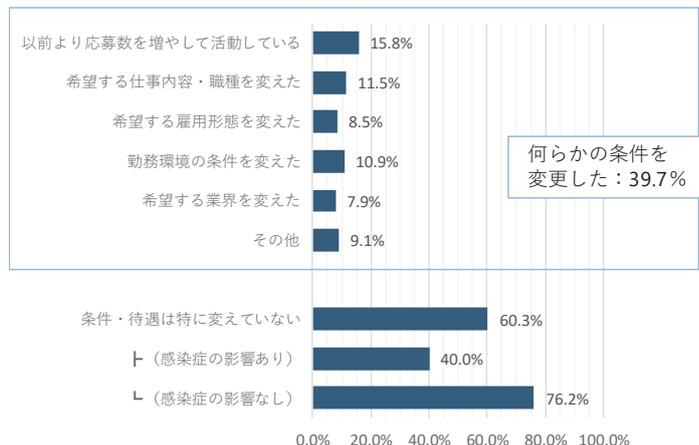
リスクを感じ、回避したい意向を示す自由意見が多く集まった。

「条件・待遇は特に変えていない」について、今回仕事探しをしている理由に新型コロナウイルス感染症の影響がある人とならない人を比較した。「感染症影響あり(『はい』と回答/以下同)」の人は、「条件・待遇は特に変えていない」割合が40.0%で、「感染症影響なし(『いいえ』と回答/以下同)」(76.2%)より36.2pt以上低くなっており、何らかの条件を変更した割合が大きい。

自由意見

- 適切な訓練を受ければ、どこでもすべての仕事ができると思います(正社員/男性/20代)
- 出来るだけ自宅から近く、公共交通機関利用を少なくした。派遣から正社員に変え、生活を安定させるため、希望給与を上げた(正社員/女性/40代)
- 電車通勤はリスクが高そうなので、徒歩で通える、これから開店する新人教育のある業界にした(パートまたはアルバイト/女性/50代)
- キャリアだけで評価していただける所を探しています(契約社員または嘱託社員/女性/60代)
- 得意分野だけでは中々難しい。方向性を変えてチャレンジするしかない(その他:条件さえ合えば/女性/50代)
- 週4日、午前中の限られた時間の勤務を選んで応募してみました(パートまたはアルバイト/男性/60代)

新型コロナウイルスの感染拡大により、仕事探しの際に注目する条件や待遇は変わりましたか？(複数回答)



【社会人基礎力の自己評価】

自信のない社会人基礎力 1位「創造力」、2位「働きかけ力」、3位「ストレスコントロール力」

経済産業省では、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を、社会人基礎力として定義している。3つの能力、12の能力要素からなる。自分の社会人基礎力をどう評価するかをきいた。

「かなり自信がある」割合が最も高かったのは、「規律性(社会のルールや人との約束を守る力)」の51.8%、次いで「傾聴力(相手の意見を丁寧に聴く力)」の33.6%となった。「かなり自信がある」と「まあまあ自信がある」を合わせた場合、95.1%の人が規律性に自信を持っていた。

「まったく自信がない」割合が最も高かったのは、「ストレスコントロール力(ストレスの発生源に対応する力)」の6.7%、次いで「働きかけ力(他人に働きかけ巻き込む力)」の3.9%となった。「あまり自信がない」割合が最も高かったのは「創造力(新しい価値を生み出す力)」の40.6%だった。「あまり自信がない」「まったく自信がない」の合計では「創造力」の割合が最も高く44.2%だった。

※社会人基礎力12の能力要素

主体性:物事に進んで取り組む力

働きかけ力:他人に働きかけ巻き込む力

実行力:目的を設定し確実に行動する力

課題発見力:現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力:新しい価値を生み出す力

発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力:相手の意見を丁寧に聞く力

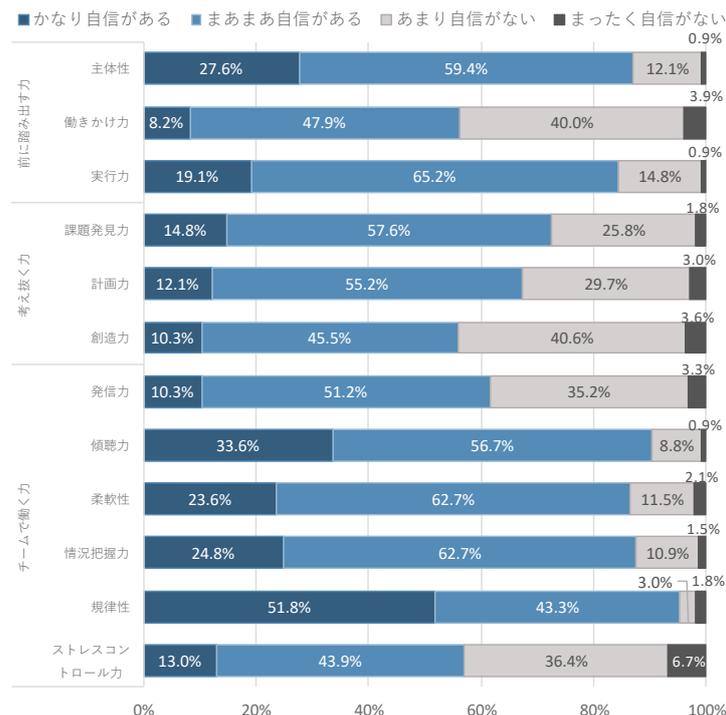
柔軟性:意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力:自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性:社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力:ストレスの発生源に対応する力

あなたは、ご自身の以下の能力について、どのように評価していますか。



【社会人基礎力の自己評価(年代別・希望雇用形態別)】

自信がある割合は30代以下が他年代よりも少なく、60代以上が高い傾向

社会人基礎力の自己評価について、「かなり自信がある」と「まあまあ自信がある」の合計を、年代別または希望雇用形態別に比較した。

年代別にみると、全体の傾向として30代以下は他年代よりも自信がある割合が少なく、60代以上はその逆となっている。30代以下の場合、これまでの仕事を通じた経験時間自体が他年代よりも少ないことから、能力を備えていたとしても自負するほどではないと考えている場合がある。60代以上では、これまでの仕事の中で各能力を活かして働いてきたという経験が、自己評価につながっていると考えられる。

希望雇用形態別にみると、「正社員」の自信がある割合が比較的高い。「働きかけ力」と「課題発見力」では、「正社員」と「パートまたはアルバイト」で差がみられる。業務の進行上、最終責任は正社員の担当だったり、チームのメンバーを鼓舞したり全体を俯瞰する機会が多いことから、これら能力を日常的に求められている立場の求職者が多いと考えられる。一方で、「実行力」と「規律力」では大きな差はみられなかった。

